



制度〈基本〉

運用・商品〈基本〉

運用・商品〈実践〉

その他

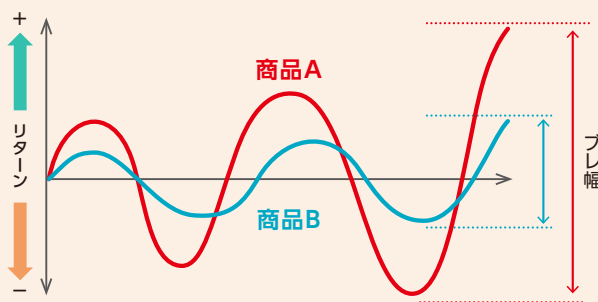
投資のリスクとは？

一般的にリスクという言葉は、「危険性」・「損害発生への恐れ」という意味で使われますが、投資の世界では、「予想どおりにいかない可能性」・「結果の不確実性」を指し、リスクの大きさは、値動きのブレ幅で表します。



■ リスクとリターンの関係

リターンとは、運用により得られる利益または損失のことで、リスクとは値動きのブレ幅のことを言います。
リスクを抑えようとすればリターンは小さくなり、高いリターンを目指せば大きなリスクを覚悟しなければなりません。



商品A

値動きのブレ幅が大きい
=リスクもリターンも大きい

商品B

値動きのブレ幅が小さい
=リスクもリターンも小さい

■ 商品種類別「リスクとリターン」のイメージ



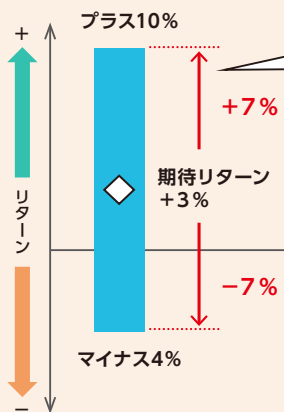
リスクとリターンの関係は、投資対象によって異なります。上の図は各運用商品のリスク・リターンの目安(※)を示したものです。一般的に、リスク・リターンの大きさは、「預金・保険<債券<株式・不動産」、同じ投資対象なら、「国内<先進国<新興国」の順に大きくなります。

※上図は各運用商品のリスク・リターンの目安(2003年4月～2022年3月のマーケット実績に基づきイメージを作成)を示すものであり、将来の運用成績を示唆するものではありません。

■ 標準偏差とは

リスクは標準偏差で表します。毎月の運用レポートに記載しているリスク(標準偏差)(※)は値動きのバラつきを数値で表したものです。数値が大きい程バラつきが大きい(リスクが大きい)ことを意味します。

※各期間の月次収益率から算出しています。



1年間の値動きは約7割の確率でこの範囲に収まる

例えば左図のように、ある資産の期待リターンが3%、リスク(標準偏差)が7%であるとする、1年間のリターンは、期待リターン3%を中心にして、上下7%の範囲内に入る確率が約7割であることを意味します。言い換えれば、1年間のリターンは、約7割の確率で+10%から-4%の範囲に収まると考えられます。

運用を行う上で、リスクを避けて通ることはできませんが、長期投資・積立投資・分散投資を行うことで、リスクを抑えながら、安定したリターンを得ることが期待できます。

★長期・積立・分散の効果については、「“リそにゃ”とまなぼ!」2023年2月号・3月号をご確認ください。



“リそにゃ”とまなぼ!は
毎月発行しています。

バックナンバーはこちら
からご覧いただけます。



<https://www.resona-tb.co.jp/401k/pop/channel/oshiete/>

2023年5月発行

リそな銀行 信託年金営業部
DC運営管理グループ

〒540-8607 大阪市中央区備後町2-2-1

本レターに関するお問合せ先

リそな銀行 確定拠出年金コールセンター
☎ 0120-401-987+「2#」

本レターの無断引用・転載はお断りします。